美術家よ外に出よう

竹岡　和田男

5月である。空が美しい。空気がさわやかである。気分のいい季節だ。外に出て，この気分のよさを，じゅうぶんに味わうことだ。

家にひきこもってばかりいては，ロクなことはない。第一，健康によろしくない。小さな換気扇は気休めに過ぎない。窓をあけ放つくらいなら外に出て直接太陽を浴びよう。

美術家の仕事は，ただアトリエの中だけで果たされるものではない。と私は思う。あなたが絵の具のとき方を知り，筆の使い方を知り，いろいろとテクニックを知ることだけが，そのままいい絵をつくることにつながるのだろうか。確かにそんな時代もあったかもしれない。しかし，いまは違う。美術家が行動する場は問題にならないほど広がっているし，その行動がまた，アトリエであなたの仕事をより広く，深くしているともいえる。

過去の例で，美術家がアトリエを飛び出して，行動に移った結果，多くの人の共感と参加を得たのは，たとえば北海道美術館の建設運動がある。あれはともかく，苦しんでも戦って踏み台をつくった，すばらしい例ではないか。

逆に行動力が足りなくて不首尾に終った例もある。札幌市民会館のギャラリー設置などはそうだ。完成してしまってから，あのギャラリーは悪評に包まれ，およそ使いものにはならないのだ，と美術家にソッポを向かれたが，そうさせた責任は美術家自体にもある。建設計画のときから関心を持たねばならなかったのだ。それをいい加減にしておいて，ただ市だけを責めるのは当たらない。

これからも，美術家がしっかりしていなければ，どうなるかわからない，といった問題がつぎつぎに起こるだろう。札幌市に新しい文化会館を建てるとか，開道百年の記念行事に文化界でもいろいろと催しを持つとか，すでに目の前のプランがいろいろある。また使

展示美術　6　株式会社　六書堂
北1西2　TEL (24)5410　(22)7870　(23)4513

いものにならないギャラリーや，恥しくて出品できないあやしげな企画の展覧会が開かれるようになったらあなたはどうする。

アトリエにこもって大傑作を描いてもらうのもありがたいことだが，私はそれよりもまず，外に目を向けて，あなた自身に納得のある世界をつくるように努力してもらいたいと思う。それにやはり，あなたが一人の美術家であると考える前に，一人の芸術家であり，一人の市民であることを考えてもらいたいと思う。それならば，もっと積極的な動きが，いろんな面で見られてもいいのではないか。

私はこのごろは舞台をつくることに専念しているのだが，そのささやかな体験のうえからも，美術家がアトリエを出て，この舞台創造に参画すれば，お互いにどれほどプラスになるか，と考えているのだ。昨年のさっぽろ市民劇場特別公演「絵巻・源氏物語」は，ポスター，パンフレット，チケット，チラシと統一したイメージで通し，そのデザインもなかなか好評だったが，これを描いたのは，本職のデザイナーでも宣伝グループでもない。デザインは染色をやっている美術家だったし，文字は書家だった。そして二人とも，初めてやったジャンルの仕事に，いきいきと目を輝やかせて参加した。やはり昨年札幌で開かれたある洋舞公演では，商業デザイナーのベテランが，舞台美術家として加わり，やはり構成と色感で，ほかにない洗練された味を出していた。もとより本人も，はじめての仕事にわくわくして，ポスターでは感じられぬ喜びだと語っていた。

こうした，芸術各ジャンルの交流や共同作業は，これからもますますふえるだろうと思う。多面的な美の楽しさと，それが融合して新しい美となる楽しさを，いま，つくるほうも見るほうも要求している。こんなときに，どうして，あなたがアトリエの中で孤高を保っていられるだろう。

こんど文化会館が建つときは，ギャラリーの広さ，採光，壁面の色だけでなく，建築自体の形と色にまで口を出してほしい。座席の布地の色，どん帳のデザイン，色にまで。そこで演劇や舞踊が上演されるのなら装置の形，色，構成から衣裳まで。町を歩けばショーウインドーの飾りつけ，大通を歩けば花の色の配置，バスに乗れば車掌の制服の色，大いに口を出してほしい。キャンバスの上の色に酔い，アトリエのカーテンの色に満足するのが，なんというミミッチイことか，しだいにわかってくるだろう。

もとより，こんな機会は口をあけて待っていても，向こうから飛びこんでくるものではぜつたいない。発言の機会を多く持つためには，その発言の内容が，人の耳を傾けさせるに足りるものでなければならぬ。人の耳を傾けさせるためには，それだけの基盤に立ったものでなければならぬ。その基盤をつちかうためにも，あなたはアトリエに閉じこもっていてはならないものだ。

5月である。空が美しい。空気がさわやかである。気分のいい季節だ。美術家よ外に出ょう。

(1967．5．2)

リラックスなムードで
うまいコーヒーを・
茶房 珈琲園
札幌市北1条西3丁目　仲通り北向
TEL　㉔9750　㉕7344